

ホルスタイン種における過剰排卵処理の簡易化：畜産 研究所 黒岩力也

【目的】ドナーに多数の卵胞を発育させるための過剰排卵処理方法はFSHを漸減投与する方法が一般的だが、複数回ホルモン剤を投与するため、作業者の負担やミスが発生し易く、アニマルウェルフェアの観点からも牛のストレスを軽減する方法が求められている。そのため、現行法より簡易な過剰排卵処理プログラムを作成。【方法】過剰排卵処理プログラムは当所現行法（FSH8回投与）を対照区、試験区は対照区の後半4回のFSH投与分をまとめて前半4回目の投与タイミングに併せて投与する方法。調査項目は卵胞動態および採卵成績について泌乳牛と乾乳牛を調査。【結果と考察】泌乳牛では試験区で採卵総数・変性胚数が少なく、正常胚（移植可能胚）はほぼ同数。今回作成した過剰排卵処理プログラムは移植可能胚数を維持しながら、作業者の負担やミス、牛のストレスも軽減することができるものと思われた。今後、さらに簡易な過剰排卵処理プログラムを検討予定。